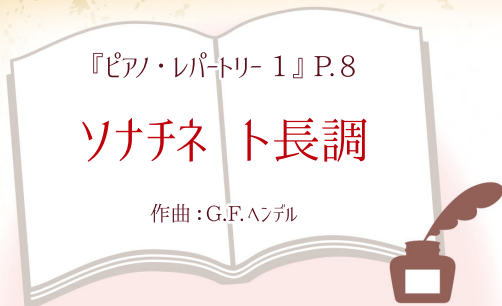


隠れた名曲から辿る音楽史

Chapter
4

ピアノ科ベーシックコース主教材『ピアノ・レパートリー 1・2』で取り上げている作曲家の作品や生涯、当時の時代背景などをとおして、古今東西の音楽の歴史を紐解いていきます。



『ピアノ・レパートリー 1』P.8

ソナチネ ト長調

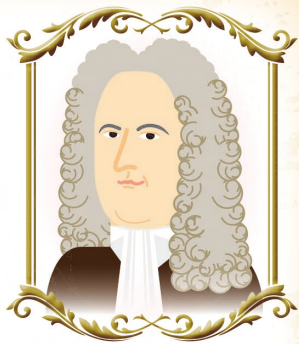
作曲：G.F.ヘンデル

ソナチネは“小さいソナタ”という意味の、規模の小さな器楽曲のことです。各時代の多くの作曲家によって、ピアノをはじめ、ヴァイオリンやフルート、リコーダー、ギターなど、あらゆる楽器のための作品が書かれました。バロックから古典派の時代に作られたソナチネのうち、技術的に易しく短めの曲を中心にまとめられた「ソナチネアルバム」などは、ピアノ学習教材としても親しまれてきました。

G.F.ヘンデルの『ソナチネ ト長調』は、小節線に対して独特の考えを持っていたという彼らしく、変拍子を思わせるような箇所を含んだ楽曲です。

ゲオルク・フィリップ・ヘンデル

(1685年-1759年)



J.S.バッハと同年にドイツで生まれた、彼と並び称されるバロック音楽を代表する音楽家です。

幼少の頃から才能を発揮し、父の反対を押し切って音楽の道に進み、オルガンやヴァイオリンの奏者を経てオペラの作曲を始め、人気を博します。そして20歳の頃にイタリアへ渡り作曲家としての名声をさらに高めると、数年後にはドイツに戻り、ハノーファーの宮廷楽長となりました。

その後、イギリス・ロンドンに拠点を移して帰化(国籍を変える)。王室の宮廷音楽家として活躍する一方、聴衆受けする数々のオペラや、「ハレルヤ・コーラス」で有名な『メサイア』などの英語詞のオラトリオ(声楽とオーケストラによる、宗教や劇的な物語をテーマに持つ大規模作品)を手がけて大成功を収め、イギリスの国民的作曲家として生涯を終えました。

代表作

オラトリオ『メサイア』／『水上の音楽』／『王宮の火花の音楽』
『調子の良い鍛冶屋』(『ハーブシコード組曲』第5番 ホ長調 HWV.430-4)

ヘンデルくんに聞く

バロック時代の音楽形式 ～ソナタ編～



ボクが生きたバロック時代に発展した器楽の主要な形式の1つに、『ソナタ』があるよ。

ソナタが誕生したのは16世紀。イタリアで好まれたカンツォーナ(フランスのシャンソンを器楽曲にアレンジしたもの)から発展していったんだ。ソナタという名前は、イタリア語で“鳴り響く”、“楽器を演奏する”という意味の“ソナーレ”に由来していて、声楽曲(カンタータ)に対して器楽曲を意味する言葉として使われ始めたんだよ。

17世紀末までにイタリアで、宮廷や貴族のサロンで演奏するための複数の舞曲を組み合わせた「室内ソナタ」と、教会で演奏するために通奏低音にオルガンを用いて、異なるテンポや拍子の楽章からなる「教会ソナタ」が定型化して、バロック時代を代表するソナタになったんだ。でも、バロック後期になると、この違いは曖昧になっていくよ。

この時代のソナタの代表的な作曲家には、イタリアのA.コレッリやA.ヴィヴァルディ、D.スカルラッティ、ドイツではボクのほかに友人でもあるG.F.テレマンや同年代のJ.S.バッハ、フランスのF.クーペランなどがいたんだよ。

イタリア
アルカンジェロ・コレッリ
(1653年-1713年)

ドイツ
ゲオルク・フィリップ・テレマン
(1681年-1767年)

イタリア
アントニオ・ヴィヴァルディ
(1678年-1741年)

ドイツ
ヨハン・セバスティアン・バッハ
(1685年-1750年)

イタリア
ドメニコ・スカルラッティ
(1685年-1757年)

フランス
フランソワ・クーペラン
(1668年-1733年)

ピアノ・レパートリー 1・2

～時代様式、スタイルを学ぶ～

「ピアノ・スケッチ」を修了程度のお子さまから大人の初心者の方までを対象に、著名作曲家の作品を中心として、四期(バロック、古典、ロマン、近現代)それぞれの時代様式の特徴がよく表われている楽曲を集めたテキストです。



ピアノ・レパートリー 1
■ 定価：1,000円+税
■ 品番：T31-114
■ 対応級：
ピアノ科ベーシックコース
5～2級
■ 収録曲：全15曲



ピアノ・レパートリー 2
■ 定価：1,000円+税
■ 品番：T31-115
■ 対応級：
ピアノ科ベーシックコース
3～2級
■ 収録曲：全12曲

対応SMFミュージックデータ [1巻：6曲セット/2巻：4曲セット] 定価：各800円+税
『ローランド ネットワーク サービス』会員専用ページにてダウンロード購入いただけます。